うわべの信仰と本当の信仰

ヨハネ福音書4:43-45
【新改訳2017】

4:43 さて、二日後に、イエスはそこを去ってガリラヤに行かれた。
4:44 （なぜなら）イエスご自身、「預言者は自分の故郷では尊（たっと）ばれない」と証言なさっていた。
4:45 それで、ガリラヤに入られたとき、ガリラヤの人たちはイエスを歓迎したが、それは、イエスが祭りの間にエルサレムで行（おこな）ったことを、すべて見ていたからであった。彼らもその祭りに行っていたのである。

【NKJV】

4:43 Now after the two days He departed from there and went to Galilee.
4:44 For Jesus Himself testified that a prophet has no honor in his own country.
4:45 So when He came to Galilee, the Galileans received Him, having seen all the things He did in Jerusalem at the feast; for they also had gone to the feast.

【祈りながら考えよう】

（１）44節の「自分の故郷」とは、どこを指すのですか。

（２）44節と45節の冒頭の接続詞を入れ替えて読むのはどんな問題がありますか。

（３）結局、これらの節で問題としているのは、うわべの信仰と本当の信仰である。本当の信仰はどのようにして得られますか。

【解　説】

（１）「自分の故郷」はどこを指すのか

《さて、二日後に、イエスはそこを去ってガリラヤに行かれた。イエスご自身、「預言者は自分の故郷では尊ばれない」と証言なさっていた》（43-44節）

サマリア人の間で2日間を滞在された後、主はその歩みの行く先を、北のガリラヤに向けられた。44節は解釈が困難に思われる個所である。

43節では、サマリアに二日滞在した後、ガリラヤへ行かれたことが記されているが、44節では、その理由として、「**イエスご自身、「預言者は自分の故郷では尊ばれない」と証言なさっていた**」と説明している。これが逆なら分かるが、自分の故郷で尊ばれないから、そこへ行かれたというのでは、どうも理解できない。

しかもその上、45節になると、「**それで、ガリラヤに入られたとき、ガリラヤの人たちはイエスを歓迎した**」という。

これも逆なら分からないことはない。故郷では尊ばれないという主イエスの御言葉を引用しておきながら、「**それで、ガリラヤに入られたとき、ガリラヤの人たちはイエスを歓迎した**」という。

これでは、さっぱり意味が通じない。この個所については、昔から、いろいろな解釈がなされてきた。

①第1の解釈

まず、「**自分の故郷**」とは、どこを指しているのかということである。神学者オリゲネス（254年頃没）やマルドナトス（1583年没）らは、次のような問題解決を試みる。

彼らによれば、「自分の故郷」とはキリストが誕生したベツレヘムないしはユダヤ地方を指す。すると、この文章は「イエスはサマリアを去って二日後、ユダヤでなくガリラヤに行かれた。なぜなら、ユダヤでは尊ばれず、信用もされなかったからである」というような意味となる。

しかし、主イエスはエルサレムでは尊ばれなかっただろうか。いや、むしろ逆で、エルサレムをはじめヨルダン川の近くでの主の働きには、多くの人々が良い反応を示し、そのため、パリサイ派の人々のねたみを買ったがために、ユダヤを去ってガリラヤへ来たのではなかったか。それが４章１-３節であったはずである。

それに、共観福音書（マタイ・マルコ・ルカ福音書）では、「**預言者が尊敬されないのは、自分の郷里、親族、家族の間だけです**」という旧約の預言の言葉は、ガリラヤのナザレを指して使われているのに、ヨハネによる福音書の場合だけ、ユダヤを指すと考えるのは、無理な解釈と思う。

②第２の解釈

「**自分の故郷**」がガリラヤということになると、最初に挙げたように、文章の筋が通りにくくなるので、次のように読み変えようとする人が出て来る。それは、４４節の冒頭に使われている理由を表す「接続詞」（英訳 for ／なぜなら)と４５節の冒頭に使われている「接続詞（英訳 so ／それで）」を読み変える。

つまり、「**イエスは、ご自分の故郷では尊ばれないことを知っておられたのに、ガリラヤへ行かれた。それにもかかわらず、そこで歓迎された**」というふうに読み変える。しかし、このように「接続詞」を自分勝手に変えて読むことは、聖書が神の霊感によって書かれたことを無視するもので、聖書の改作になりかねない。だから、このような勝手な読み変えはしてはならない。

③第３の解釈

「**自分の故郷**」を、ナザレを指すと解し、ガリラヤは、ナザレ以外のところを指すと解する人もいる。「イエスはガリラヤへ行かれたが、それはご自分の故郷であるナザレでは尊ばれないことをご存知であったので、ナザレへは行かれなかった」というのである。これは、今までの解釈よりはよいように思われるが、ナザレもガリラヤの中にあるわけであるから、やはり不自然な解釈と言うほかはない。

④第４の解釈

それでは、ここの個所はどういう意味なのであろうか。４４節の冒頭には、理由を説明する接続詞（for）があって、４４節のことわざが、４３節の理由の説明となっている点と、４５節の最初に、「そういうわけで（so)」という接続詞がこの一連の文章を困難にしているが、困難な点は、見方を変えれば、困難でなくなってくる。

そこで、もう一度この個所を見て見る。主イエスがガリラヤへ行かれた時、人々は主イエスを歓迎した。どうして歓迎したのかという理由が、それに引き続き記されている。「**彼らも祭りに行っていたので、イエスが祭りの間にエルサレムでなさったすべてのことを見ていたから**」（45節）なのである。

この点からすると、彼らが主イエスを歓迎したのは、主がエルサレムでなさったしるしを見ていたからであって、その時、エルサレムでしるしを見て信じた多くの人々について、主イエスが信用なさらなかった事実と関係がありそうである。それについてヨハネは、次のように記している。

《**過越の祭りの祝いの間、イエスがエルサレムにおられたとき、多くの人々がイエスの行われたしるしを見て、その名を信じた。しかし、イエスご自身は、彼らに自分をお任せにならなかった**》（ヨハネ2:23-24）

主イエスがユダヤを去って、ガリラヤへ行かれたのは、ユダヤでは人々から歓迎されなかったからではなく、むしろ多くの人々が信じ、その数がバプテスマのヨハネの弟子たちよりも多くなったからであった。

しかも、エルサレムで多くの人々が信じたのは、必ずしも本当の信仰ではなかった。それは、主イエスがガリラヤへ行かれた時も同様であった。彼らは主イエスを歓呼して迎えた。しかし、それは上っ面の信仰でしかなかった。主イエスのしるしを見て信じたにすぎない。だから、本当に主イエスを尊んだわけではなかった。うわべだけの歓迎ではあっても、本当の意味での歓迎ではなかったと言ってよい。

（２）私たちの信仰はどうか

私たちの信仰はどうだろうか。主イエスがエルサレムやガリラヤへ行かれた時、歓迎し、信じた人々の信仰とどれだけ違うと言えるだろうか。

生涯を通して、本当にイエス・キリスト以外に救いのないことを知り、信じて、キリストに従って行くか。それとも、現在は大体においてすべてのことがうまく行っているから信じていくといった信仰にすぎないのか。

どんなものであろうと、キリストの御心でなければ、喜んで捨てられるか。それとも、この問題だけは自分の自由にさせてほしいといった程度の信仰なのか。

自分が持っているもの、それが学業であろと、仕事や職場であろうと、家族であろうと、主のために喜んで捨てることが出来るか。主は、主の弟子として主に従って来ようとする人々に対して次のように言っておられる。

《**わたしのもとに来て、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分のいのちまでも憎まないなら、わたしの弟子になることはできません。自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしの弟子になることはできません**》（ルカ14:26-27）

私たち日本人にとって、この訳は誤解を生じかねない。主イエスの弟子になる要件は、当時のユダヤ的表現であって、「AよりもBを愛する」という場合、「Bを憎む」という言い方がなされていた。だから、ここでも主イエスに対する愛が絶対であることを、このような表現で語られている。

肉親への断ちがたい絆は、誰もが持っていることを前提として、肉親への愛が、主への愛と比べた時、色あせ、憎しみにさえ思えるほど、主イエスへの絶対的な愛を要求しておられる。そのように要求される主イエスは、私たちを罪から救ってくださるために命を捨てるほど、私たちを愛してくださった。だから、私たちにもそれに応えることを求められる。

ここで主が弟子たちに語っておられることを、割引なしに受けとめることの出来ない人は、うわべだけの信仰で、主はそのような人の信仰を信用なさらない。私のためにいのちをも捨ててくださった主に、何を惜しむものがあるのであろうか。

私たちが罪から救われ、天の御国へ行き、そこで受け継ぐものがどれほどすばらしく、栄光に輝いたものであるかということが分かれば、これくらいの覚悟は何でもないはずである。それが分かるためには、心の目が開かれることが必要で、知恵と啓示の御霊によらなければならない（エペソ1:17-19）。